



木曽林務課だより

10月

冬本番も間近ですが、秋の紅葉の時期に行われた、中学校の森林整備体験の様子を紹介します。

大桑中学校、南木曽中学校の森林整備体験が行われました。

大桑中学校と南木曽中学校では、毎年、森林を育てる地道な作業やその大切さについて理解を促し、自然あふれる「ふるさと」への郷土愛や勤労観を育むための総合的な学習の時間を活用して、地元町村、森林組合、団体等が協力して指導にあたり、森林整備体験を実施しています。

大桑中学校の活動（みどりの少年団活動）

大桑中学校1年生は、10月17日に野尻の村有林で木曽南部森林組合や森林管理署・地域振興局・村職員の指導のもと、ヒノキの除伐体験を行いました。

慣れない手つきでのこぎりを使って、10年以上前に先輩が植えたヒノキの枝打ちや周りの広葉樹などの伐採に汗を流しました。

午後は、木の小枝を使って自分だけの鉛筆づくりに取り組みました。個性豊かな鉛筆ができました。



作業する生徒たち



自分だけの鉛筆づくり



作業後のきれいな林



作業前に向井町長さんの挨拶がありました

南木曽中学校の活動

南木曽中学校1年生は、10月27日に天白の「だいでうの森」で、ヒノキと広葉樹の間伐を、南木曽町林業研究クラブや町の山林委員、森林組合・地域振興局・町職員が指導して実施しました。

毎年実施してきた学校林(分収林)の木が大きくなり安全を考慮して、場所を町と「森林の里親契約」を締結している企業の森をお借りして行いました。

大きな木もあり、のこぎりでの間伐はたいへんでしたが、森林整備の体験で仲間と協力する大切さを学べたようです。



伐採方法の説明に聞き入る生徒



協力して作業する生徒たち

